

■ RubyWorld Conference 2010

昨年9月に大盛況のうちに開催された、RubyWorld Conference(RWC)が、今年も9月6日(月)、7日(火)の2日間で開催されます。しまねOSS協議会も昨年に引き続き、開催実行委員会に参加しています。

今年のRWCのテーマは、「Rubyのエコシステム(生態系)」です。

「エコシステム」とはどういう意味なのでしょうか。

調べてみると、エコシステムというのは、本来は生物学における生態系を意味する用語らしいのですが、ビジネスやIT分野では違う使い方がされているようです。あるHPによると、、、「ある業界にかかわる複数の企業が協動的に活動して業界全体で収益構造を維持し、発展させていこうという考え方によるもの」とありました。ふむふむ。

Rubyは、今やRuby開発者の方だけのものではなく、多くの企業さん、アプリケーションの開発者、行政や教育機関、そしてコミュニティの皆さんや、ユーザーさんも含めた広い範囲に関係が及んで、それぞれの思いや、様々な技術が絡み合い、Rubyを中心にまるで一つの「生態系」を形どっているということなんですね。

そして、このRubyの「エコシステム(生態系)」の理解というのが、今年のテーマになっているというわけですね。

是非RWCにお越しいただき、Rubyのエコシステムの奥深さを味わってみてください！(ふくだ)

■ オープンソースカンファレンス 2010 Shimane

2008年に島根で初めて開催したオープンソースカンファレンス(OSC)は、その後毎年開催し、今年で3回目になります。去年はホーランエンヤと同じ日の開催にも関わらず、本当に多くの人に参加して頂きました。

OSCは、様々なオープンソースソフトウェアに触れるとても良い機会です。毎回県内外からとても多くの方が来場され、各種オープンソースソフトウェアの開発者の方と直接お話し、オープンソースソフトウェアについて志を同じくする同士と意見やお酒を酌み交わす絶好のチャンスでもありますので、以前参加されたことのある方もそうでない方も、今年のOSCでお会いできることを楽しみにしています。

もし、発表者として参加されたい方や団体、企業などございましたら、申込みの案内をWebサイトに掲載いたしますので、下記URLをご参照下さい。(きむら)

<http://www.ospn.jp/osc2010-shimane/>

オープンソースカンファレンス2010 Shimane

日時 : 平成22年11月27日(土)

場所 : 松江テルサ本館および別館

■ 編者後記

先日、iPadを購入しました。本当は3G回線の使えるものが欲しかったのですが、ここ島根はソフトバンクがiPad 3G版を扱わない数少ない貴重な県に選ばれてしまっているため、Apple StoreにてWiFi版を購入しました。

iPadで何ができるのか。

そして、iPadは何をもたらすのか。

その答えはまだわかりません。

しかし、iPadを使っていると何か大きな流れの中にいるような感じがします。そして、それはOSSにも大きな影響を与える可能性を持っている気がしてなりません。今後は楽しみです。(きむら)

このニュースレターはOpenOffice.orgで作られています。



第七号(2010.07.16)



写真: オープンソースサロン後の懇親会にて

■ 第50回オープンソースサロンについて

2010年5月14日(金) 18時30分~20時30分

テーマ : オープンソースと政府・自治体-OSC.Government

話題提供 : 宮原 徹 氏 (株式会社びぎねっと/オープンソースカンファレンス事務局)

高橋 信頼 氏 (日経ITpro副編集長)

このオープンソースサロンも初回開催より3年半が経ち、記念すべき50回を迎えるまでになりました。

この記念すべきサロンにスペシャルゲストとして、株式会社びぎねっとの宮原氏、日経ITpro副編集長の高橋氏のお二人を招聘しました。お二人は、今やしまねOSS協議会にとってなくてはならない方であり、高橋氏には松江市を常に気に掛けていただきながらRuby関連の情報をITproに掲載いただき、また宮原氏には、オープンソースカンファレンスの開催に際し、いつも大変お世話になっています。

サロン開催にあたって井上会長が挨拶をし、50回と言わず100回、200回と続けていきたいと想いを述べ、講演に入りました。今回の参加者は40人程度で、椅子を追加するほどの盛況振りでした。

高橋氏は風邪でのどを痛めておられ、声が出にくい中、「地方自治体のOSS活用」という視点でお話をいただきました。長崎県における「自治体クラウド」の県外普及への取り組み、徳島県がRubyで独自に開発したCMS「Joruri」によるサイトリニューアルやIP電話システムを職員で構築した秋田県大館市、中古パソコンをLinuxで再生利用した大阪府箕面市、四国中央市や会津若松市でのOpenOffice.orgの導入によるコスト削減、職員が一人で市のSNSを開発した熊本県八代市などたくさんの方の事例を挙げ、自治体におけるOSS活用の広がりを紹介され、地方自治体によるOSS活用の理由として

- 1) チャレンジが認められやすい環境(失敗しても残業代で済む)
- 2) 予算削減ができて理解が得やすい。
- 3) 地元の仕事が発注できる

などが挙げられるとまとめられていました。

続く宮原氏の講演では、まずオープンソースカンファレンス(OSC)実行委員会の立場で、2010年度の活動計画、運営組織、OSCの現状などについて説明。概ね2009年度で全国でのネットワークが構築され、地域自立型の開催体制を確立、学生・学校関係者の参加促進を達成できたこと。2010年度の方針は「OSSと政府・自治体」と言うテーマで開催されるとのことでした。

具体には、

- 1) 「政府・自治体のOSSへの取り組みと課題」としてOSS導入におけるサポートやライセンスの問題
- 2) 「政府・自治体とコミュニティの関係」として政府・自治体によるコミュニティへの参加と貢献
- 3) 「オープンな標準」としてデータの互換性やデジタルデバイドの解消

などを挙げられました。この中で、3)について会津若松市の事例を挙げ、「MSOffice」を持っていない人には、市からの情報や資料を見る事ができない状況はデジタル格差であり、このことが「OpenOffice.org」の導入のきっかけとなったことを聞き、今年のテーマに繋がったとのことでした。私としてもこの導入理由は新鮮で印象的でした。

また、テーマの狙いとして、IT予算削減の要請、地域IT産業の育成、政府・自治体関係者のOSC参加などがあり、「OSCの目指すOSSエコ・モデル」として、コミュニティや企業、政府・自治体、そして一般市民らがうまく連携することが重要であると説明されました。

しまねOSS協議会でも、今年4月から「OpenOffice.org」の講習会がスタートしました。この取り組みも宮原氏の説明されたOSSエコ・モデルとして、コミュニティや企業、政府・自治体、そして一般市民らと連携しながら、オープンソースサロンと同様に続けていくことが重要ではないでしょうか。(角田)

■ OpenOffice.org講習会について

無料のオフィスソフトとして注目を集めているOpenOffice.orgの普及推進を目的として、4月と6月に参加費無料のOpenOffice.org講習会(入門編)を開催しました。場所は松江テルサ別館2F「オープンソースラボ」、時間は18:30~20:00で行い、参加者は毎回とも10名程度でした。実習があるので、各自のノートパソコンを持ち込む必要がありますが、ノートパソコンを持っておられない方への貸し出しもしております。

4月は文書作成ソフトのWriter、6月は表計算ソフトのCalcをテーマとし、入門編ということで、まず知っておくべき操作方法や機能の説明を中心に、実際の操作をしながら学ぶ講習会でした。

参加者が少人数のためか、講習会の雰囲気はとても和やかで、講師の先生もやさしく、色々な質問が飛び交い、受講者参加型のとても有意義な講習会になったと感じています。

8月にもImpressをテーマとした、同様の講習会を予定しておりますので、興味のある方は是非参加のお申し込みをいただければと思います。申し込みの方法については、しまねOSS協議会のWebサイトにてご案内いたしますのでご確認ください。(きむら)



■ 会員企業紹介(第3回)

合同会社 島根OSS研究所
中京連携マネージャー 小數賀 崇 様
(インタビュアー：倉橋)

- 最初から単刀直入に質問させていただきます。御社の社名が我々しまねOSS協議会と相当かぶっておりますが、この件についてどうお考えなのでしょうか？

わざとです(笑)。本当はもっと長い社名を考えていたのですが、出資会社の名前を省いたりしたら、結局「島根」と「OSS」が残り、それに「研究所」を付けると納まりが良かったので、島根OSS研究所と決めました。

- 社名を決めた時、しまねOSS協議会の存在を知っていましたか？

知らなかった訳ではないのですが・・・

- これ以上の突っ込みはやめます(笑)。それでは、島根OSS研究所について詳しく教えて下さい。

中部アイティ協同組合という、愛知、三重、岐阜を中心としたITの協同組合があります。その組合の理事長・鈴木が、私の所属していた株式会社エスワイシステムの社長になります。この中部アイティ協同組合が持つビジネス情報と島根県が持つRubyなどOSSの技術力を組み合わせて事業を共同受注するという趣旨で、今年3月、中部アイティ協同組合の出資で島根OSS研究所を設立しました。中京地区のビジネスと島根側のIT企業との橋渡し役としてのスキルを持つ人材、また島根県出身という事で私が島根OSS研究所の責任者に任命され、4月よりこの松江で活動しています。



- たしかに、自動車関連産業の中心地である中京地区とOSSのメッカである島根が太いパイプで繋がれると、双方にビジネスチャンスが生まれそうですね。
それでは、次にプライベートな質問になりますが、小數賀さん自身の事についてお話しして頂けないでしょうか。

私は松江生まれで、高校まで松江にいました。名古屋工業大学で機械工学を学んだ後、株式会社エスワイシステムに入社しました。この会社では、システムエンジニアとしてシステム構築やマネージメントを多く携わってきました。

私の性格ですが、人付き合いが好きですね。一人でいるよりは、多くの皆さんとテレビ(ワールドカップ)を見るのが好きです。あと、「声が大きすぎる」とよく人から言われます。マイクの音量を考えてないと・・・。そんな事ないと思いますけど、どうですか？
(インタビュアー：いや～声大きいですよ(笑)。)

一人娘が講武幼稚園に通っています。最初は戸惑っていましたが、今は島根の自然に触れて喜んでいました。自分も島根の自然の中で育ってきましたから、娘にも都会より自然の多い島根で暮らしてほしいと思っていました。

- 事業を開始されて約2ヶ月経ちますが、ご苦労とかありますか？

中京地区と島根のビジネスマッチングという全く初めての試みですので、ほとんど手探り状態で進めています。苦労と言うよりは、新しい事に挑戦するやりがいや楽しみの方が大きいです。

- 今後、島根OSS研究所をどのような会社になりたいとお考えでしょうか。

短期的には、設立の趣旨でもありますように、中京地区と島根のビジネスマッチングを進め、OSSの普及や利用促進を後押ししたいと思っています。今年11月にビジネスマッチング商談会の開催を予定しています。長期的には、島根OSS研究所の名前どおり、OSSの研究やソフト開発の分野も開拓したいと思っています。

- 最後に告知等ありましたらお願い致します。

中京地区への進出やビジネスをお考えの方は、弊社までご連絡下さい。

■ 松江市民レガッタ参加決定！

7/24(土)、7/25(日)に開催される第27回松江市民レガッタにしまねOSS協議会から参加することになりました。

初参加ですが予選突破を目指して、毎週トレーニングを行っています。応援よろしくお願いします。

クルー名：しまねOSS協議会

メンバー：左から、黒谷、川上、倉橋、井上、小數賀、宮尾 (敬称略)



合同会社 島根OSS研究所

〒690-0819
島根県松江市北陵町1
テクノアークしまね3F
インキュベーションルーム14号室

Tel/Fax: 0852-21-0919

E-mail: info@shimane-osslab.com
http://www.shimane-osslab.com/

2010年3月5日 中部アイティ協同組合
の合同会社として設立。
2010年4月1日 松江市テクノアークし
まねを拠点に活動開始。